

## 成果

- 以前は学習において、「できるようになってうれしい」とか、「できなくてくやしい」などといった気持ちの表出が少ない児童であったが、音読アプリで正答できると、とてもうれしそうな表情を見せるようになった。
- 正答を繰り返すことで、他の学習に対する意欲も向上してきた。
- 毎日のアプリケーションによる個別指導を通し、間違えないで滑らかに読むことができるようになった。

## 課題

- △ 読み間違えることはなくなったが、よう音を書くことはまだ難しい。書きの困難は、読みの難しさと連動しているため、さらに読みの練習を続ける必要がある。
- △ 読書が好きになるまで、練習を続けていく。

## 第2回 単音音読検査

- ・ マイペースではあるが、滑らかに、自信を持って読むことができた。
- ・ 第2回音読検査において、基準値を大きく超えることができたため、アプリケーションを活用した個別指導は終了した。

音読時間：41秒 誤読数：1文字

第2回音読検査  
の結果  
個別指導終了

0月 11月 12月 1月 2月 3月

中して取

った。  
れしそう



## 2- (3) 事例C

第1回 直音音読検査では、特に読みの困難はないという結果だったCさん。しかし、第2回 単音音読検査でよう音の読みに明らかな困難があることが分かり、個別指導が必要との結果となりました。3学期から、アプリケーションを使った個別指導を始めましたが、第3回の検査でも更に継続した個別指導が必要と判断されました。

### 児童Cの実態

- ・ 明るく活発で、誰とも仲良くすることができる。
- ・ 感情的になるとその場の状況が分からなくなる。
- ・ 注意力が散漫で、集中できないことがある。
- ・ 算数、国語共に個別的な配慮を必要としている。
- ・ 文章の読み取りや、文章を書く学習も苦手で、本人も苦手意識がある。
- ・ 漢字学習には前向きで、保護者と一緒に取り組んでいる。



### 第1回 直音音読検査

- ・ 濁音や半濁音（特に「ぢ」）で迷う様子が見られたが、直音音読検査では特に大きな課題はなかった。
- ・ 終わった後は達成感に満ちた表情だった。
- ・ 授業では少し音読を苦手そうにする様子があったが、今回の検査結果では大きな困難は見られなかったため、個別指導は行わなかった。

1分間の音読文字数：73文字

### 第2回 単音音読検査

- ・ 前回の検査よりも濁音、半濁音
- ・ 今回加わったよう音の読みが難
- ・ 今回のテストは前回の結果よりと表れた。

音読時間：68秒 誤読数：8

4月

5月

6月

7月

8月

9月



## 成果

- 一斉指導では周囲の音読のスピードに合わせる事が難しく、読んでいる箇所が分からなくなってしまうことがあったがアプリケーションを使った個別指導を通して、少しずつ指で追えるスピードが上がった。
- 以前はよう音で迷う様子が見られたが、練習を繰り返すことで迷わず読むことができるようになった。
- 読みの困難が改善されたことが自信にもなっており、学習意欲が向上した。

## 課題

- △ 文章になると、単語の区切りが分かりにくいようである。「音読アプリ1」や「音読アプリ2」を活用して引き続き個別指導を行い、読みの速さの改善を目指す必要がある。
- △ 書きの困難についても個別指導が必要である。

## 第3回 単音・単文音読検査

- ・ 読み間違いはほとんどなかった。
- ・ 単文は単語の区切りが分からず迷いながら読んでいたため、読む速度がゆっくりになってしまった。
- ・ アプリケーションでの個別指導の結果、よう音の混乱は明らかに減少した。

〔単音音読検査〕音読時間：32秒  
〔単文音読検査〕音読時間：40秒

誤読数：3文字

で迷っていた。  
しく、時間を要した。  
読みの苦手さがはっきり

文字

10月

11月

12月

1月

2月

3月

## アプリケーションによる個別指導②（ひらがな単音）

- ・ 保護者の協力を得て、冬休みに自宅でアプリケーションを活用した個別学習に取り組んだ。
- ・ アプリケーションを活用した学習は1日1度しかできないが「もう1回やりたい」と言い、楽しく取り組むことができた。

第3回音読検査において、引き続き個別指導が必要と判断されたため、「音読アプリ1」「音読アプリ2」を活用した個別指導を継続する。

## 2-(4) 事例D

学習面、生活面全体的に遅れが心配なDさん。第1回 直音音読検査後から継続した個別指導を行いました。ゆっくりではありますが、少しずつ読みは上達しています。

また、音読検査や個別指導の取組について、丁寧な説明を保護者に行ったところ、Dさんにはより丁寧な個別指導が必要だということを保護者に理解していただくことができ、特別支援学級への転籍について検討を始めることができました。

### 児童Dの実態

- ・ 穏やかな性格で、自分の身の周りのことは、自分でできる。とても努力家である。
- ・ 言葉の発音が不明瞭なところがあり相手に伝わりにくい。
- ・ 学習内容の定着には、個別的な支援と時間が必要である。
- ・ 読みは、一文字一文字読み、単語をまとまりとして読むことは難しい。
- ・ 授業中の音読では、担任が文節で区切って読んだ後に続いて読んでいる。
- ・ 書きでは、濁音・半濁音やよう音を正しく書くことが難しい。
- ・ 文章を書く際には、児童が発言した言葉を担任が紙に書き、それを視写している。



### 第1回 直音音読検査

- ・ 一文字一文字を指でたどりながら読んでいた。
- ・ 見た文字を音に変換するのが苦手なため、音読に時間がかかった。
- ・ 濁音と半濁音は、ほとんど読み飛ばし、読むことができないようだった。

1分間の音読文字数：16文字

### 第2回 単音音読検査

- ・ 読む速さに変化はなかったが、濁音
- ・ よう音は、「しゅ」を「し」と最初の
- ・ 読むことに対して少し抵抗感が減っ

音読時間：105秒 誤読数：16

4月

5月

6月

7月

8月

9月



### アプリケーションによる個別指導① (ひらがな直音)

- ・ 「は」と「ほ」、「ぬ」と「ね」の読み間違いがあった。
- ・ 濁音、半濁音で混乱している様子は続いたが、少しずつ定着していった。
- ・ 不正解が続いたことによる意欲撃退や、疲れと自信のなさの表れなどで正答率が低くなることも多かった。
- ・ 個別指導は、毎日給食開始前の時間に行った。
- ・ 画面に出てくるひらがなではなく、変化する色に興味を持っていた。

## 成果

- 文字を読む速さが少し速くなった。
- 直音は、ほとんど正しく読めるようになった。
- よう音は、「しゅ」を「し」「ゆ」と読んでしまうが、「しゅ」が「し」と「ゆ」の組み合わせであることを認識できるようになった。
- 文字を読むことに対して、抵抗感が少なくなった。
- この取組により、Dさんの実態把握を深め、保護者と共通理解することができた。今後の支援についても、前向きに検討を始めるきっかけとなった。

## 課題

- △ 読むことだけでなく、全体を通して学習内容の定着に難しさがあるため、アプリケーションを活用した指導だけでなく、継続的に個別指導を行う必要がある。

## 第3回 単音・単文音読検査

- ・ 直音については、自信を持って読むようになった。
- ・ よう音を「し」「ゆ」と2音で読むようになった。
- ・ よう音はまだ不正確だが、全体的に滑らかに読むことができるようになり、読む速度が速くなった。
- ・ 単文は文としてではなく、一文字ずつ読んでいた。

〔単音音読検査〕音読時間：92秒 誤読数：10文字  
〔単文音読検査〕音読時間：44秒

と半濁音の読み飛ばしが減った。  
文字のみ読んでいた。  
て自信が持ててきている。

文字

10月

11月

12月

1月

2月

3月

## アプリケーションによる個別指導②(ひらがな単音)

- ・ 音読文字数の伸びは非常に緩やかで、正答率も5割くらいが続いた。
- ・ 無意味な文字を読むアプリケーションには集中が続かない様子が見られたので「音読アプリ1」を併用して取り組んだ。絵が出てくる「音読アプリ1」の方が集中できた。
- ・ 絵の表示を見て答えていることが多く、絵から連想して文字は見えていない様子も見られた。

アプリを活用した個別指導だけでなく、より丁寧な個別の支援が必要だと判断された。保護者との連携を深め、本児にとって最適な学習環境を検討していく。

### 3 一斉指導でのアプリケーション活用

#### 学級の状況

- ・ 一斉指導での音読では、得意な児童と少し苦手な児童が混在している。
- ・ 児童一人一人の音読について、明確な評価は行っていなかった。
- ・ 家庭学習として、音読の宿題を毎日出している。

#### 実施時間

国語の時間の最初の場面 5分間



#### 実施場所

教室



#### 教材教具

大型テレビモニタ、タブレット等

#### 成果

- ICT機器を活用した学習は、児童の興味・関心が高いため、授業の最初に行うことで、集中を高めることができた。
- 個別指導でアプリケーションを活用している児童にとって既習の課題なので、一斉指導の中で自信を持って読むことができた。
- 一斉指導で取り組むことで、アプリケーションを使った個別指導について周囲の児童の理解が深まった。
- 毎時間（国語）の導入に活用することで、学級の児童全員で音読練習が行えた。
- 学級全体の読むことへの関心を高めることができた。